

東海民放クラブだより

カメラ部会秋の信州撮影ツアー
 東海民放クラブは1988年(昭和63年)に発足し、今年30周年を迎えます。

阪田 晃(THK)

我がカメラ部会はその発足後3年目、部会長に畑幸夫さん(故人THK、三重テレビ)を迎え講師の山口節三さん(故人THK)、佐藤信義さん(故人SF)、伊藤幸三さん(故人CBC)の教えを受けながら、当初20名でスタートしました。翌年には30名に、3年後には67名と参加部員が増加し東海民放クラブでも最大級の部員数となりました。年に数回の撮影会とその後の講習会を開催し、研鑽を積んできました。

第1回の作品発表会は平成2年に「東海道の古き町を訪ねて(三重県関町)」、第2回は「やきもの散歩道(愛知県常滑市)」、以来「水辺の情景」、「童謡の世界」、「私の唄が聞こえる」など毎年テーマを決めて撮影、発表会を重ねてきました。テーマに行き詰まったこともあり、23回の作品展から自由な発想で部員のその年の自信作

を出品することとなり、現在に至っています。

さて、今年の活動は1月、新年会、5月、豊橋加茂しようぶ園撮影会、6月、国府宮田植祭撮影会、7月、講習会、10月、信州撮影ツアー、作品展、12月、作品発表会のスケジュールでした。活動の中から10月の信州撮影ツアーの様子を報告いたします。

今年の秋の一泊撮影会は例年通り長野県茅野市車山高原のペンション(写真家を利用し車の便宜を図ってくれる)をベースに、南信州、日本のチロルと言われる遠山郷下栗の里と秋の蓼科高原を撮り尽くそうと総勢14名の参加で実施いたしました。



参加者一同「ハイ! こっち向いて!!!」

秋は天候不順、秋雨前線が列島を離れず、発当日は朝から雨。午後からは少し前線は南下する見込みとい



日本のチロル・下栗の里

うことで不安を抱きながらも、一路、日本の目的地「日本のチロル」を目指しました。

恵那山ト

ンネルを抜けて飯田市内から南アルプス方向へ約90分、遠山郷下栗の里へ続くヘアピンカーブの細い山道をひたすら登ります。

登り詰めた駐車場には食堂があり、ここが里の最高地点で眺望は最高のはずだが…。残念、雨は上がったものの里は濃霧の中に沈んでいます。昼食を済ませたころには、霧も晴れるだろうと一同ビールを飲みながら待ちました。依然として状況は変わりませんが、食堂から急斜面の杉林の中を歩いて約20分の所に下栗の里を一望できる絶好のビューポイントがあります。風が出て霧が一気に晴れることも、写真家にはよくあることで、せっかくなので来たのだからと誰もが考え、20分歩いた先は…写真の通り30分ほど待っても事態の好転は望めそうもありませんでした。

残念ながら撮影を断念、眼前に拡がっているであろう「日本のチロル」を思い描きながら下栗の里を後にしました。

2日目は毎年午前5時出発の八嶋湿原の早朝撮影会でスタートします。眠い目をこすりながら湿原へ向かう途中のバスの中で全員嫌な予感が…。晴れてはいそうだがこちらも濃霧の真つただ中。

前日の下栗の里を引き継いで眼前の湿原は真白な霧の湖、山の稜線さえ見ることができない最悪の状況が拡がっています。

僅かな希望を持って日の出時間の午前6時を待ちましたが、昇っているであろう方向から太陽の光は届きませんでした。

しかし8時の朝食をとる頃にはすっかり晴れ上がり、八ヶ岳連峰から富士山まで見渡せる絶好の撮影日和となり、気分一新、御射鹿池、乙女滝と廻り秋の信州を満喫しました。



御射鹿池